

小田原史談

第98号

発行所 小田原史談会
小田原市南町3の21

新春あいさつ

会長 中野 敬次郎

昭和五十四年を送って、また新しい正月を迎えて見ると、いつもながらの二宮尊徳の詠んだ

○元旦や今年もあるぞ

大晦日

という句が思い出される。私事になるが、昨年はいわゆる草燃ゆるのブームに乗せられて、やれ講演だ、原稿だ、やれ頼朝史跡だ政子遺跡だと引っぱり廻されてなんとも忙がわしい、あわただしい日を送ってしまった。今年は何んとしても実のある思考の年を送りたいと思う。

昭和も五十五年と言えば史上最長のこの元号も半世紀を過ぎて更に五年になった。お目出度いことだ。西暦も一九八〇年で二十世紀の第八十年代にはいったのが、占師ではないが、語呂

道に乗った活動にとり組む時期が来たように思う。そこで再び郷土の先輩二宮尊徳の言葉をくりかえし掲げる。

○この秋は雨かあらしか

知らねども

今日のつとめに

今年収穫を期待して、その根拠をなす皆様のご健康を祈る。

から言っても画期の年のように思われる。小田原市にしてからが、市制四十周年の記念の年でもある。今年に文化上にも新しい色々のことが起きるであろう。我等の会もそろそろ本元の軌

第二回市内の

仏像仏画めぐり報告

杉崎 正五

昭和五十四年十月十日（誓願寺（阿弥陀如来）一本源寺（千手観音画像）の順に発、多古王宝寺（五百羅漢像）一久野京福寺（釈迦三尊像）一谷津本誓寺（歯吹阿弥陀如来）一谷津浄水寺（日蓮上人画像）一昼食は裏駅で一時間開散、自由に食事を取る事として午後は新玉

少なかったが、此の仏像廻りに参加されなかった方々も折りがあつたら是非見て頂きたい。

次に中野先生の案内を記して見る

○多古の五百羅漢（木像）

曹洞宗天桂山玉宝寺にある、此の地の旧家添田富右エ門の祖先智鉄、真澄の兄弟が享保十四年（三三）から宝暦七年（五五）九月十六日まで二十九年間かゝって完成奉納したもので、五百羅漢、十大弟子、十六羅漢と合せて五百二十六体の尊像である。

わがおやに似たる

仏もある羅漢

まわりておがまん

多古の寺かな

御詠歌

○久野の釈迦三尊像（木像）

曹洞宗栖徳山京福寺の本尊で、本尊釈迦如来（七五センチ）と脇仏は文殊菩薩と普賢菩薩の三尊ともに平安後期の寄木造である。

京福寺は北条早雲の妾で北条幻庵の母である栖徳院の菩提寺であるので、京都あたりから移入された仏像でないかと思ふ。県重文指定

○谷津の歯吹阿弥陀如来像（木像）

浄土宗本誓寺の本尊で歯をむき出しているの、はぶき如来と言われている。

立木像で（四尺二寸）鎌倉時代の作である。寺の開基の安楽寺殿（安藤氏、今川氏親の臣）の守護仏であったという、同寺にはこの外に上作の阿弥陀如来像二体がある。

○日蓮上人の説法像（画像）

日蓮宗秀光山浄水寺に伝わる有名な画像で、日蓮上人蛇身解脱像と称せられて、上人の説法のとこころに蛇身の龍女が宝珠を捧げながら岩上の蓮華の花瓶に巻きつきながら説法を聞いている図で、女人成仏の法を示したものと、日蓮上人の自筆と伝えられているが、桃山時代の作と推定されている。神奈川県重文。

元和年中に徳川家康の側室お万の方（養珠院）がこの画を愛し、家康の装束のきれいで表装し二重箱を作つて寄進した。

○谷津の七面山の妙見像

この画像は大久保忠憐の愛蔵のもので室町時代の秀作である、寺には不動明王木像、愛染明王木像の鎌倉時代の作と思われる秀作の仏像がある。

（木像）
浄水寺には日蓮上人筆曼陀羅（弘安三年十月とある）日蓮上人木像（風祭大野亮作という）などがある。また身延山にならって七面社を祀っているの、里人はこのあたりを七面山とよぶ、堂内の妙見神像は（一尺二寸）は秀作である。

○本誓寺の阿弥陀如来像（立木像）

妙香山本誓寺、浄土宗伊勢の人で諸国を巡歴した妙香尼の持っていた蓮慶作の阿弥陀如来の首に北条氏康の夫人が形体を造って興立した仏像だという（二尺五寸）

本源寺の千手観音（画像）
恵日山如法院、天台宗

千葉県史跡と

房総観音めぐり報告

杉崎 正五

十一月十八日（日）七時半集合で八時出発、バス一台満パイ、一路千葉に向つたが案外日曜のせいか上り東

に困ったが、此れも運転手の氣転で思いのほか順調、唯十一月末の日の短い事と寺の入場制限が四時なので特に期待をしていた笠森寺の懸崖造の楼に登れなかったのは残念だったが暮れ足早の早い十一月で次の清水寺は翌日に廻す事にして一宿舎三ヶ月ホテルに急いだ。三ヶ月ホテルは勝浦湾を目下にする絶景の場所、風呂に入ってから夕食の料理は此れ又今まで廻った旅館としては最高の料理だと思ふ舟形造りの生き料理は特に美事で一同満腹、翌朝勝浦の朝市を見て、前日の予定だった清水寺まで逆もどり約三十kmほどをしたので鯛の浦など横目に見て一路十三番那古寺に急いだ。此処は道路の端で思いの外簡単でも距離が遠いので昼食マザー牧場に着いたのは一時近かった。此処で又ジンギスカン料理を腹いっぱい詰めこんだ。風が激しかったのでヘリーが欠航、帰りの遅くなるのを心配したが幸い午後は風も凩いでヘリーの出航が出来た、出航第一便の三時四十分金谷発に乗って案外道路は順調だったが小田原に着いたのは六時を廻っていた。十一月の暮れ足の早い時期なのでよくも此の時間に帰れたと喜んで。

次に中野先生の千葉の史跡と房総観音めぐりの案内を記して見る。予定の観音めぐりは出来たが其の他の史跡は残念ながら割愛せざるを得なかったが、後日千葉方面に遊ばれた時参考になるので其の他の史跡もそのまま書き入れて見ます。

コース
一日目、小田原―松田(東名高速)―東京―京葉道路―千葉市(千葉寺)―木更津(高蔵寺)―長南町(笠森寺)―茂原―一宮―呷町(清水寺)―勝浦市(三ヶ月ホテル泊)
二日目、勝浦―小湊町―鴨川市―館山市(那古寺)―鹿野山(マザー牧場)―金谷(ヘリー)―久里浜―返子―鎌倉―小田原
○海上山千葉寺 (二九番札所)
千葉市千葉寺町、真言宗豊山派、本尊十一面観世音。奈良時代のはじめに行基菩薩が清水原に初めて堂宇を建立したと縁起にある。鎌倉時代の初め千葉常胤が寺の近くに猪鼻城を築いてから同氏の保護によって栄えたが、全盛期には十八坊を有したけれども、元禄二年文化三年、嘉永五年と度々全焼し、近くは昭和二十年七月七日の戦災で焼失したので今の本堂は鉄筋コンクリート建で昔の面影がない

現在残る文化財としては
・仁王門(天保十二年建立)
・大銀杏(天然記念物、樹齢八百年)
・青銅製梅竹透彫釣灯籠(重文)
・多宝塔(鎌倉時代二基)
・多宝塔(二基室町時代)
・五輪塔(二基天正十年在銘)
此の寺の十二月大晦日に行われる「千葉笑い」という行事は有名である。
○加賀利貝塚
世界屈指の大貝塚
千葉市桜木町、国道五一号(佐倉街道)桜木町バス停から一〇〇m
千葉は貝塚の多いので有名であるが、その中でも世界に知られた大貝塚で現在は加賀利貝塚公園として国史跡として保存されている
台地の上に南貝塚(三五〇〇年から二五〇〇年以前)と北貝塚(五〇〇〇年から三五〇〇年前)とから成っていて縄文時代中期、晩期の人々の大集落跡である。

ドーナツ形にふくれ上った北貝と馬蹄形の南貝塚との複合から成り、北貝塚直径一三〇m南貝塚一七〇mあって、世界的に稀に見る貴重な大遺跡である。
○木更津の史跡
○光明寺と
切られ寺三郎の墓
駅前の光明寺は日蓮宗中本山、南北朝の古寺で、薬

医門(本柱の内がわに二本の控柱をたてた切妻造りの門)は有名である。境内に切られ寺三郎の墓がある。
与三郎本名大吉上総国増穂村の人で木更津にきて紺染屋の島屋で働くうち、網元源治の愛妾お富と情交し、南片町の料亭であいびぎしているところを源次がふみこんで二人を斬った、大吉は江戸に出て長唄をやり歌舞伎にも出たという、戯作者三世瀬川如翠がこの話を芝居にしたのが「世話浄名横節」(よはなまきうきなよこぐし)である。
○証誠寺と狸はやし
駅より少し海岸寄り、矢那川のほとりに(富見町二丁目)に浄土宗証誠寺がある。
或る仲秋名月の夜、大狸小狸が数十四が境内に「証誠寺のべんへこべん、おいらの友達ちゃんとことん」のおどろきを見て和尚も毎夜ともにおどった。或朝本堂のそばの川べりに一匹の大狸が腹の皮が裂けて死んでいるのを見て和尚さんこれを境内に葬って狸墓を立てた、此の伝説をもとにして詩人野口雨情が作詞、中山晋平作曲でできたのが童謡(証誠寺の狸はやし)である。
○平野山高蔵寺 (三〇番札所)

木更津市矢那高倉 真言宗豊山派、本尊聖観世音、通称を高倉観音の名で知られている。
この附近一帯は森林地帯で竹と杉の巨木にすっぽりつまれた閑静そのもの、縁結びの寺である。
寺の起源は上古、用明天皇の頃からと伝えるが、現在の建物は山門と鐘楼は江戸初期のもの、本堂は室町末期の改築である。
本堂は重層入母屋造り、床下一・九mと高く人が立って床下をあるける、チヨ一ナ削りの八十八本の巨大な柱を使った七間堂(十二間四方)柱は十六面取りの珍らしいもので全貌は頗る豪放雄大で関東でも有数の建築だが屋根の一部が破損し、まだ国の指定をうけていないのは惜しい。
縁結びの観音といわれ、えんむすび御守を売っている。
○大悲山笠森寺 (三一番札所)
長生郡長南町笠森 天台宗 本尊十一面観世音、像高二・六m 応永三三年作の刻文がある、寺伝に延暦三年伝教大師の創立というが、現在本堂(観音堂)は室町時代末期のものである七十数段の石段を登った朝立山の頂上にある本堂は岩山の上に数十本の柱でささ

えられた四方懸崖造りの舞台造りの美事な建物で、桁行十三m梁間十一m棟高二・七m、その雄大さに参詣者を茫然たらしめる。
本堂の宝前の金網から廊下の手すりまで、また境の木と木の間に繩がはってあってそれに小布やハンカチが無数にかかっているのは縁結びの信仰によるものである。境内の鍔唐草文灯籠二基も本堂とともに国重文である。
○音羽山清水寺 (三二番札所)
呷町鴨根一二七〇 天台宗本尊千手観音。バスを下りて徒歩十分ぐらいの板道である、坂を登りつめると二王門、四王門、四王門を入ると本堂が正面に、左手に十一面堂(奥の院)、右手に地藏堂がある。坂上田村麻呂が京都の清水寺に模して作ったというので寺名を清水寺山号も音羽山というが数度の火災で仁王門(安土桃山時代)を残してほとんど古建物は残らぬ、本堂は元禄時代のものである。仏像は本尊の十一面観音は文明十二年の火事で下部が焼けた、十一面堂の十一面観音は、高さ一mの奇木造りで、白毫と王眼に水晶が用いられてあって完全で秀作鎌倉時代のもので 泉重文平景清の身代り観音とい

う頭と手だけの珍しい観音木彫四十七士像などがある
○勝浦城址とお万の方の誕生碑

勝浦市の港の魚市場から岬の突端に出ると八幡岬で岬一帯が戦国時代の正木氏の居城勝浦城址で、一部はサル園で猿ヶ城という、その入口の神社の鳥居の前に「徳川養珠夫人誕生の地」の碑がある。
養珠院は徳川家康側室お万の方のごとで、この城主正木頼忠の娘であるのでこの地を誕生地としたがこれは誤りで頼忠が勝浦城主になる以前に小田原北条氏の人質時代の子であるので実はお万の方は小田原生まれである。神社のうしろの断崖は「お万布さらし」といって、小田原落城のときお万一族がここに布をたらし船に乗りこんで落ちて行ったと伝う。

○清澄寺と誕生寺と
日蓮上人
清澄寺は天津小湊町清澄の清澄山頂三八三mにあつて平安の初め丹仁が天台宗として開き嘉保三年(一〇九五)焼失したのを安房園司源親元が再興したのが現仏堂である。元和二年(一六一六)に真言宗に改宗し更に昭和二十四年日蓮宗に改めた。
誕生寺は天津小湊町小湊

にある 日蓮の弟子日家が師の誕生地の華蓮潭に創建したが、明応七年(一九九〇)の地震のとき津浪にあつて倒れ、寺地は海中に没した、後に西海岸の妙の浦に再建したが、また元禄十六年(一七〇三)の大津浪で流失して、宝永年間に現地の朝日山麓に移した。祖師堂は天保年間建立のもの。日蓮は貞応元年(一二三二)二月十六日安房国長狭郡東条郷の漁家に生まれた。十二才のとき清澄寺で道善坊に師事し十六才で出家して是聖坊運長と名乗った。後鎌倉に学び、次で南都、北嶺、高野に遊学して諸宗を深め朝日に向つて南無妙法蓮華経となえて立教改宗したのは建長五年(一二三三)四月二十八日であつたという。父母を法華経に

千葉県史跡と房総33観音めぐり

収入		支出	
会費	884.000	バス代	175.000
(52名×17.000)		旅館代	371.000
		食事代	121.900
		通料	5.450
		車料	500
		乗船料	25.960
		保険料	2.650
		旅館代	8.000
		御料	10.000
		拝観料	26.500
		代	10.000
		代	5.000
		代	12.000
		費	22.000
		札	3.200
計	884.000円		799.160円
		残金	84.840円

綿依させ父を妙日、母に妙蓮の法号を授け自らは父母の名を併せて日蓮と稱したのである。

○補陀落山那古寺 (三十三札所)
館山市那古一・二五 真言宗智山流 本尊千手観音(銅製)
寺の起りは行基の開山といわれ 源頼朝。里見義実などの綿依をうけて栄えて安房五大寺の一つである。常緑広葉樹の極相林の緑はえる山を背景に勝浦湾を眼下に見下す環境はすばらしい。坂東札所の結願寺で、「納めの札所」「打ち止め」の寺である。多宝塔は江戸中期の貴重なもの(県重文)本尊は像高一・〇五m あつて鎌倉仏として県下最大のもの名作である(県重

文)
○鹿野山と神野寺
鹿野山は君津市にあつて海拔三五三m山頂に行く途中にマザー牧場の大遊園地があり、山頂には上町、下町との二集落がある、山上集落として知られる。その中間の台地に真言宗の神野寺がある。飛鳥時代に開かれたというが房総の豪族、大名にまもられて栄えて来た江戸時代の初め作られた本堂は雄大で、入母屋の屋根千鳥破風、唐破風、格子天上の狩野派の絵など何れも優れて美しい(県重文)観音堂(六角堂)四脚門(重文)も禅宗様式のすぐれたもの、裏に江戸城の全景モデルの庭園があり、東京から移した大町桂月の旧邸もある。

追遠忌

星野喜久雄

井細田の旧家鈴木家の主人鈴木平八殿は昭和五十二年十一月十七日午後小田原市小沢病院入院中心臓発作を起こしそのまま帰らぬ人となった。十八日夜七時より「味のブラザ」にて通夜翌日長男鈴木房晃氏喪主となり告別式十二時より多数の参列者を迎えて行なわれ十六時より忌中「済み解散」となった。「平等院法種日道居士」とおくり名を享年七十三歳。日蓮宗の立題目で野辺の送りとなる。霊前に飾られた顔写真がとても美しかった。生家は元亀天正の昔より今日まで四百年の経過を有する井細田村の旧家である。生前いろいろの話聞かせて戴いているので郷土の証言になるので思い出すまに偲んでみる。明治三十八年生まれ二川小学校を四年卒業し足柄小学校を卒業している。大正時代の小田原紡績の開業から関東大震災による店仕舞まで見つめてきた。井細田の拾町歩の水田を神山神社裏手から「トロッコ」で土を入れたという。井細田の商家が栄えた衣類が飛ぶようにうられたという。最も多くの人があいたときには四千人の工女がいたという大正四年に一反三五〇円で田売られたという。工事完成は大正七年だったという。正月7、8、9、10、11、12年と満六年で関東大震災で小田原はつぶれた。死者一七五名傷者三〇〇名工女二五〇〇人もいた。地震のときにはまずまわりをみることにした。当時井細田は二百軒たらずで農家が六〇軒と聞いた。鈴木さんは現役兵として近衛騎兵としての軍隊生活を送っている。当時の若者のあがれのまどであり体格のよが長身の姿勢で長靴長刀近衛帽は今でも眼にうかがう。私の生家は菓子屋だがどの位鈴木さんには世話になったか知れない。暮の餅搗きの時、力のある餅を搗く姿が眼に印象づけられている。私の祖父や鈴木さんの父も共に当時の区長、村会議員、氏子総代、檀家総代と交互につとめた間柄だったことが親密さを増し、亦「助っ人」にきて戴いた理由につけになったと思う。父

が青年会にいたとき鈴木さんは旗手をつとめたという川端の小野氏の話に、鈴木さんは野菜作りが上手で「ホーレン草」作りの足柄平野の名人といわれた人だと聞いた。

井細田の旧道に流れていった穴部用水の飯田岡水門の近代化の功績は忘れてはならないことである。飯田岡から山王に到る沿道の農地に給水したもので現在富士フィルム工場地を流れている用水である。井細田の地境などもよく聞いた。現在の足柄小学校の敷地問題でも御苦労があったと聞いている。八幡神社境内地に建

碑してある宝曆七年(一七五七)の南無妙法蓮華経の碑も鈴木家の先祖が建碑したのである。八幡神社は奥殿を大正十四年に作り拜殿は昭和四年に完成したという。先祖の名は鈴木庄左エ門という。通夜の晩妙紹寺の住職が応接間に飾ってある表彰状、感謝状をみてこれだけことをされた方かとおつくづく感心したといわれた。中国でいう「井戸を掘った人」とは鈴木さんのことだといわれた。

自治会長、青年会、消防団、公民館、在郷軍人会、遺族会、農協、生産組合、老人会、檀家総代、氏子総代、二川体協、穴部用水、

まず井細田の役職はすべてこなした。葬儀委員長は大川孝太郎さんがあたり現国道二五号線の完成は鈴木氏の功績だと聞いた。完成まで三〇回会の会合を重ねたという。勿論御自分の生家も対象となり特に歩道橋を西井ビルに足場を提案された。鈴木家は昔より通り名を「西」という。井細田では西で通る家です。私も八幡社の総代は十年の経験があるが鈴木さんは通算して五十年神社前に位置しているとはいえ敬神の心篤く青年より現職で御世界するまで五十年の長きにわたるもので日本神社より表彰の栄をうけた。昔の軍隊の体験者は体格がよく神社の勞力奉仕は一人舞台であった。樹木の枝葉の焼却枯木の処理、根っ子の結末など一人でこなされた。

七〇歳になっても八幡社夜宮の奉納角力で中学生と角力をとる一面、みこし山車の先頭立って歩く姿。奉加帳を持って町内の法人関係や御祝儀を戴きに歩くときのお供として聞く先方との話のやりとりのうまさ飾らない誠実な姿が旧家の出身にあって笑いつつまらした。

妙紹寺の客殿の完成にも御仕職にズケズケと言へる人だった。通夜の晩景会議

員の山口武利先生が弔辞に「断腸の思い」で決別の挨拶があったが聞かせた。大川孝太郎さんの告別式出席に先立っての挨拶も井細田における功績をとき立たせ

た。鈴木蘇堂氏が献句した「菊に埋れてこころ残いはなかりしか」責任総代石川金治氏が神社の表彰状を朗読した。大川氏曰く「孝心厚き人で母堂を背負って井細田公経堂での題目に行かれたと。井細田妙円寺御住職曰く「鈴木さんほど良く働く人をみたことがない」と、遠慮のない人でした八幡神社のことではまだまだ生きてはしなかった。残念でならない。農家の出身で八幡神社拜殿のお飾りなど上手に作って下さった。私は酒が飲ず歌も唱えなかつたが鈴木さんは助っ人としてくれた。お祭の夜プロレス

なみに面をつけておどけてみせたりした。政治の話で昔の人が「ノーノーヒヤヒヤ」というのがヒヤヒヤがわからないので何かと聞いたら「賛成」ということだと聞いた。市議会議員の池田六郎氏が小学校同窓ということと地元で候補者の子息とともに応援してもらっ

た。是非善悪をはっきりする人であるといつた。昔の名主という人はどんな人か

と聞いたところ「人が話し

かけてきたら上をむいてしまふのが名主だ」といわれた。元責任総代の清水義三氏が死去の晩に電話をかけてきて私は「さびしい」といわれた。終戦直後の市議選では重いバッテリーを持って歩きながらの選挙を清水氏のためにしてくれた人であった。

栄枯盛衰の流れの世に何

川瀬 春雄

酒匂鍛冶考

六、鍛冶の分布について

相模風土記酒匂鍛冶分の条に「...と鍛工四十二軒余住居せしかば地名となれり、今は民戸六十二戸の内鍛工を業とする者七戸のみなり」との記述があるここに言う鍛工四十二戸とは現在の酒匂神社前に鍛冶分と呼ばれた南北二百メートル東西二百五十メートル程の小きな村の内であった鍛冶業者の数とされているが、これはおそらく言伝をそのままに記述したものの様である。筆者の調査によっても元村である酒匂村地域内にも相当数の鍛冶業者の存在した事実が確認されているからである。即ちこの四十二戸と言ひのはこ

百年という長い歴史を保ち続けてきた世の為、人の為に奉仕してきたからだと思

う。八幡神社の山車の横断に大川染工場の肝入りで鈴木平八氏、中戸川元三氏の名が入っている。私に示してくれた気づかいの例は枚挙にいとまがない。敬慕の情を披瀝して御冥福を祈りたい。(高士一記)

これら酒匂村地域のそれをも含めての数であったであろう事が充分考えられる。猶風土記の記述の中に鍛冶分の戸数六十二とあるが、これは天保十年前後の風土記稿編纂の時点に於ける戸数で、鍛冶の最盛期であったと思われるこれより百五十年も溯った元禄年間あたりでは五十戸前後ではなかつたろうか。この様に考えてみると五十戸前後の鍛冶分地域に四十二の鍛冶が存在したと言ふ事も一寸うなづきかねる、さてこれら四十二戸の鍛冶業者が鍛冶分地域と元村の酒匂村のどこにどの様に存在したかについて長い時間をかけて調べて

みる事にした。

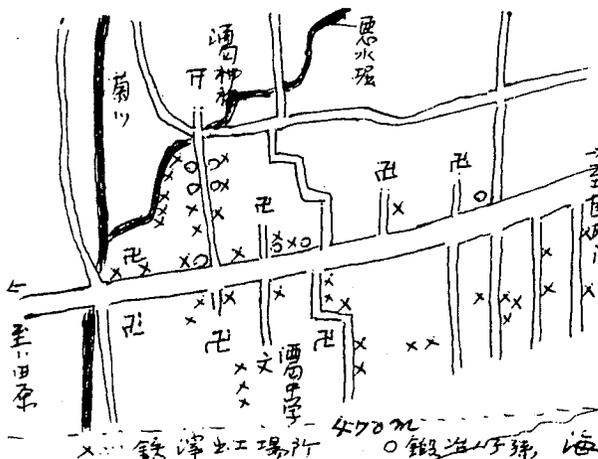
先づこれらの内の何軒かについては「先祖は鍛冶であった」との言伝へあつた事である。次に言傳へこそないが今でも住居の周囲から鉄滓が出てくる事である。「先祖の鍛冶であった」との言伝へを残している僅かの家、また今でも「鍛冶屋」と呼ばれる屋号を持つ家に、これらはおそらく明治に近づく迄鍛冶業を営んでいたものらしい。それより遠く溯って廃業した人達の家には既に言傳へも消去してつって今は住居の周囲の鉄滓だけが鍛冶の営まれた事を物語っている。しかしこうした手がかりも何も無い残る多くの消えさつた鍛冶の所在を個々に明らかにする事は今では容易ではない。とは言へ面白い事に今でも酒匂の町の道路の片隅や国道から海岸に通る抜ける小路などを丹念に調べてみると小さな鉄滓が転っているのが目につく、これらの鉄滓こそ今は言傳へも何も残っていない消去した多くの鍛冶達の存在した事を証明する唯一の資料である

鉄滓分布図について

図に見る様に酒匂神社前から南へ国道に出る迄の二百メートルの間は両側に軒並と言ふ程、鍛冶であつたと言傳へられていた事はは

と

酒匂川と鍛冶と鉄滓分布図



つきりわかる。更に東海道へ出たあたりの鍛冶分地域内にも多く鍛冶があった事が鉄滓によって示される。更に国道を東へ林病院より先の酒匂川地域をみると北側には少く海側にのみ多くみられるこの理由として考えられる事は当時東海道路沿いの両側に一軒並びになっていた民家の海側の裏手は砂浜であったが、北側の民家の裏手は田畑であった為耕作の障害になる様な鉄滓はおそらく鍛冶の子弟等の手によって海側の小路を通過り砂浜に捨てられたもので

ある。その途中で落ちこぼれたものが今だに吾々の目にとまるのである。この様に鉄滓の分布をみると西は村はずれ法船寺から東は明治初年あたり迄、村の端であったり。小沢豆腐店のあたり迄の四百十メートル、北は酒匂神社入口から酒匂中学校々舎あたり迄の二百五十メートルの間に分布している。以上は鍛冶の作業場から排出され捨てられた鉄滓の分布についてであるが、これによって逆に言伝へも消去った鍛冶の所在を推理す

(蒸気機関車のはなし) 蒸気機関車の走る仕組みは、石炭を燃やして、ボイラーの水を蒸気に変え、その蒸気をシリンダーに送りピストンを動かします。ピストンの動きは、回転運動に変えられて動輪を回します。吾が国最初の1872年(明治五年五月) 鉄道開業の時に使われた、最初の蒸気機関車は、イギリス製小形タンク機関車「ゴビ」形号といきました。それから、約二十年后に

内には当然これら十二、三戸のそれが含まれていたものであろう。とすると元禄の改めに酒匂村から分村した時点には既に鍛冶分最盛期を迎へて鍛冶分を含めた酒匂村全域に四十数戸その計算からしても鍛冶分地域内の鍛冶の数はず十戸程度であったと考えるのが妥当の様である。 昭和54年12月23日記

る事も当然出来る筈であるしかも当時の村民のすべてが街道の両側に一軒並びに押合う様に生活していた事を考えるとも推理も容易にできそうである。ところで風土記稿の酒匂村の項には鍛冶についての記事は全然みられないが、この分布図から考えると十戸とも十二、三戸の鍛冶が存在したであろう事が推定される。鍛冶分地域内にあったと傳へられる四十二戸の

り心地は、もちろんのこと冷暖房装置等もつけられ、車内の設備もよくなってきました。また、寝台車をはじめ、用途に応じた形式が生まれ、車体も軽いものがつくられるようになりました。 鉄道が開業した明治五年五月の最初の客車はイギリスから輸入した木製で、小形の二輪車(いわゆるマツチ箱と称した)で、その後明治九年にボギー車に変わり、昭和になって鋼鉄製になりました。 それから客車の種類には次の通り、いろいろあります。

- ①オハ35形 (戦前の標準形で長さが20米級)
- ②ナハ10形 一九五五年製で軽量客車第一号形式で旧形客車より約30%軽い
- ③オニ10形 一九五七年製の郵便車で近代化第一号
- ④ナハネ20形 20系特急用客車の普通形寝台車
- ⑤オハ12形 一九六九年製新形客車で車内設備がゆっつきりとしている
- ⑥ナハ61形 戦後、古くあった木製の客車を改造してつくった鋼体化客車
- ⑦ナハ2000 大正後期の代表的標準形客車でまだ木製でした
- ⑧スハ44形 戦後に最初の特急客車で腰掛が回転式

- ⑨ナン20形 一九五八年に登場した20系固定編成式の特急用客車の食堂車で新しい設備が特色であった
- ⑩オロネ14形 固定編成式の特急用客車を改良した最新形A寝台車です
- (特殊な車両のはなし) 鉄道の車両は人や貨物を運ぶためのものですが、輸送の安全を守るために、輸送用以外のいろいろな種類の車両が使われています。 例へば、線路や架線を調べるための検査用車両、架線をひくための工事用車両新しくつくられた機関車の性能を調べるための試験用車両、事故で転ぶくしたり脱線した車両を処理するための救援用車両、線路に積った雪を取り除くための除雪用車両等があり、他の華やかな車両のかけで、大きな働きをしております
- (路面電車のはなし) 電気を使った最初の鉄道は、路面電車(市内電車ともいう)として都市に生まれました。そして自動車がまだ少なかった戦前の都市交通の主役であったのです。それから戦後になって自動車は非常にふえたため、大都市では、ほとんど廃止されてしまい、変わって地下鉄が建

外国鉄道の四方山噺

額田 喜代春

設されています。しかし、最近では自動車の公害により、路面電車の長所を見直すという声も出ています。

日本で最初の路面電車は一八九五年に京都で開業し、次いで当地小田原では、明治二十一年十月一日国府津から小田原經由箱根湯本まで八哩三十八チェン、軌間三呎六吋で小田原馬車鉄道が開通、次いで昭治三十三年三月二十日この線路を利用して、小田原電気鉄道が開業（軌間四呎六吋に拡張して）国府津―箱根湯本間一時間で。

(四) ケーブルカーのはなし
ケーブルカーは山へ登るための急勾配用の鉄道として、主に観光地などで活躍しています。

つるべ式に二両の車両をロープでつないで、つり合いを取りながら、巻きあげ機で上下させる仕組で、中間のすれちがひ部分は、そのため、復線になっていてロープには充分な安全性をもたせ、万一切れても、自動ブレーキがかかるようになっています。

小田原近在では、箱根登山鉄道の強羅―早雲山間がそうです。

(五) 地下鉄のはなし
地下のトンネルを走る地下鉄は、百年以上も昔にイ

ギリスで誕生し、現在では大都市の交通機関として重要な役目を果たし、世界中の大都市に行きわたっています。

それから使用されている車両は、総て電車で、日本でも高性能の電車が活躍しております。

以下各地の地下鉄のお話を述べてみましょう。

① 丸の内線 G形 大東亜戦後に生まれた近代化タイプ最初の電車です
② 日比谷線 G2000系 車体がステンレス鋼製でパンタグラフを用いて、東横線と東武線に直通しております。

③ 千代田線 G2000系 制御装置やブレーキ装置に最新方式をとり入れた電車で、国鉄常磐線に直通しております。

④ 札幌市交通局 1000系 ゴムタイヤ、案内軌道などを取り入れた、日本最初の新方式の電車です。

⑤ 横浜市 1000系 車体がステンレス鋼製の最新スタイルの電車です。

⑥ 名古屋市交通局 1000系 急なカーブの線路が多いため、車体を15米と短かくしてあります。

⑦ 大阪市交通局 (C) G2000系 車の長さは18米ですが、四つ扉の新形車です。
(D) 60系 阪急に直通運

送するために新設された、パンタグラフ付きの新形電車です。

以上、地下鉄は、一九二七年、東京が開業されて以来、現在まで、大阪、名古屋、横浜、札幌にも建設されて現代の大都市には、なくてはならない交通機関になっております。

そして、地上の道路では自動車とか、通行人が多いので、交差点などの関係で速度の速い長編成の列車の運転は出来ません、その点地下鉄は道路上の交通に干渉して、高速で大量に輸送が出来、しかも安全という長所をもっていますが、建設工事費が非常に高くつくのが短所でもあります。

地下鉄の歴史は古く、世界で最初のイギリスのロンドン市の地下鉄は、一八六三年に開業しましたが、初めは蒸気機関車が使われましたが、その後は、すべて電化されました。

現在、世界各国の大都市ほとんどに地下鉄が普及して、都市交通の主役となっております。

(四) ロープウェイ
急勾配を登るのに深い谷を越えるような地形の処、例えば箱根早雲山から湖尻へ行く所では、空中に張った金属性のロープに吊り下がり、別のロープに引かれ

て、ゴンドラが走ります。スキー場や、観光地等で使われています。二台のゴンドラが、交互に往復する方式と、一定の間かくで、ゴンドラが次から次へと回わってくるじゆんかん式とがあります。

(五) モノレールのはなし
輸送する人数が、鉄道を必要としない程度の所で、例えば、東京の浜松町から羽田の空港のように、ほとんどのは、コンクリート軌道をレール代りにして騒音を防ぐために、ゴムタイヤをつけております。

地下鉄の建設費の三分の一乃至五分の一で済み、建設期間も短いのが長所で、道路や川の上空をも利用できます。しかし、速度と大量輸送という点で、かなり鉄道におとるので、余まらず普及しておりません。

それから羽田モノレールは、こざ式といえます。

(六) 五めすらしい機関車
いろいろ

特殊な形式の蒸気機関車が造られました。これ等の希らしい形式の機関車は現在減りつつありますが、その中で車両数も多く、有名なつたものを取りあげてみましょう。

(イ) フェアリー式蒸気機関車
この機関車は二つのボイラーを機関士室(火室)を中にして、背中合せにしたもので、この機関車の特徴は、急なカーブに強いことで、路盤の弱い軽便鉄道等で多く使われ、イギリスで保有されている鉄道に現在でも使われているそうです。

(ロ) ガーラット式蒸気機関車
二組の走り装置(シリンドラー)と動輪をそなえた台枠)を前後にとりつけて、その間に橋を架けたような格構で、ボイラーと運転室がのつているという形式です。

石炭と水は前後の走り装置の上に積んであり、大型の火室を使うことができ、大型で強力なわりに、曲線を楽に通過することが出来ます。

(ハ) シェイ、ギヤード式蒸気機関車
急勾配、急曲線の路線で使う目的で考えられた形式で、アメリカでつく

られ、主に森林鉄道や工用線路で使われました。車体の右側に二乃至三個のたて形シリンドラーをおき、つぎ手と歯車で前後の動輪を回わす仕組みです。

この方式は、台湾の河山森林鉄道で活躍しているそうです。

(ニ) マレー式蒸気機関車
この機関車は、ボイラーの下に、二組の走り装置をつけた形式で、後方のシリンドラーで使った蒸気を前のシリンドラーでもう一度使う複式機関車の仕組みです。

機関車が強力化、大型化すると動輪の数がふえ曲線が脱線し易くなり、そこで、マレー式では、前方の走り装置をボイラーの下で、動くよくなつくりにして、曲線での通過を楽にしてあります。

編集部より

明けまして御目出度う御座居ます。

何時も拙ない編集の仕方で失礼して居りますが本年も沢山原稿を御送り下さいます様御願い申し上げます

杉崎